

◇ 教育基本方針

<1>【創造】 いかなる環境にあっても価値を見だし、自他共の幸福に貢献する力をつける

<2>【自律】 自分で考え、自ら計画・実行し、主体的に学ぶ力をつける

<3>【尊重】 他者との違いを認め、ありのままを受け入れつつ、心をつなぐ力をつける

◇ 教育活動・実践における重点項目

〔Ⅰ〕教育理念に基づく「人間教育」の推進

(1) 価値創造の育成

- 創立者の哲学を学び、実践を通して創立精神を学ぶ。
- 講演会や懇談会を通して社会性を学び、世界市民の資質を育てる。

(2) 自律・主体性の育成

- 自ら学び、互いに学び合う学習習慣を身につける。
- 探究プログラムを通して多角的視点を養い、課題解決の力をつける。
- 進路関連行事を通して、自らの将来を見据えたキャリア形成を実現していく。

(3) 合意形成力の育成

- 「話す力、聞く力、他者とつながる力」を育む。

(4) ユネスコスクールの活動推進

- ユネスコの掲げる学びの4本柱「知ることを学ぶ」「為すことを学ぶ」「人間として生きることを学ぶ」「共に生きることを学ぶ」に基づいた取り組みを推進する。

〔Ⅱ〕教育力向上への挑戦

(1) 授業力向上の取り組み

- 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した授業改善を行う。
- 計画的な教員研修を通して、教育スキルを磨く。

(2) 生徒理解の取り組み

- 生徒一人ひとりの状況を多角的に把握する。
- 保護者との連携を深める。

(3) 支援教育の取り組み

- ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境を整備する。
- 生徒一人ひとりのニーズに合わせ個別最適化を推進する。

〔Ⅲ〕「安心・安全」の学園生活への実践

(1) 心理的安全性の構築

- 「子どもの権利条約」をふまえ、自分の意見や気持ちを安心して表現できる環境を保障する。

(2) 生徒の主体的活動を支援し、生徒による学校づくりを推進する

- 通学マナーの改善を図る。
- 生徒会活動の活発化を図る。

(3) 各種セミナーを通して正しい知識を身につけ、問題解決力の向上を図れるように支援する

- 食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止等のセミナーを開催する。

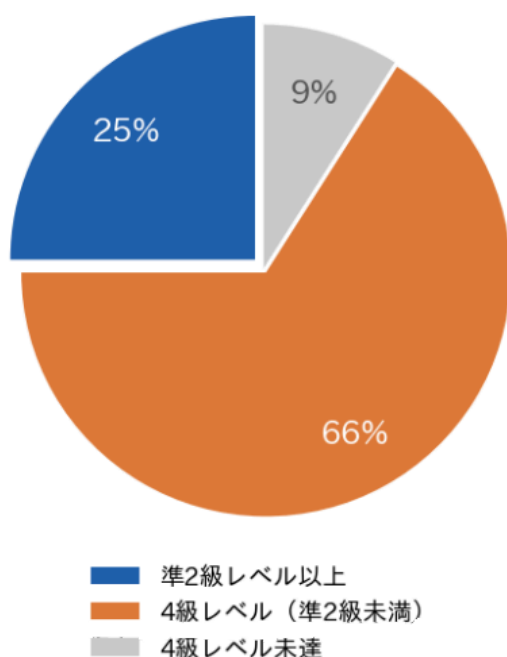
【自己評価アンケートの結果と分析】

【生徒アンケート結果の分析】

生徒アンケートでは、「尊重(他者を認め、ありのまま受け入れる)」の項目で生徒の94%が肯定的評価を示し、対話的な学びの成果が着実に定着している。1学期と比較して2学期の数値が全学年で向上しており、学年が上がるにつれて成長を実感する傾向も確認された。特に「友達の意見を大切に聞こうとしている」が全設問中最高値(94%)となり、本校の教育の強みとして確立しつつある。一方、「自律(自分で計画を立てて取り組む力)」は77%と他項目に比べてやや低く、考える機会は十分にあると感じながらも、それを自律的な学習習慣へ転化できていない生徒が少なからずいる実態が浮かび上がった。また「いじめのない安心できる環境づくり」への評価(79%)も他項目より少し低かった。引き続き生徒と良好なコミュニケーションを取っていくとともに、小さなサインも見逃さず、学年・学校で共有していくなどの体制の整備が求められる。

クエストエデュケーション(企業プレゼン)では本校チームが全国グランプリを受賞するなど、探究学習の成果が対外的にも高く評価された。英語力については、外部試験(英検IBA)の結果、2年生の約9割が4級レベルに到達し、そのうち約4分の1が準2級レベル以上に達するなど、着実な向上が見られた(図1)。

図1 英語力(英検IBA) 2年生の到達レベル分布



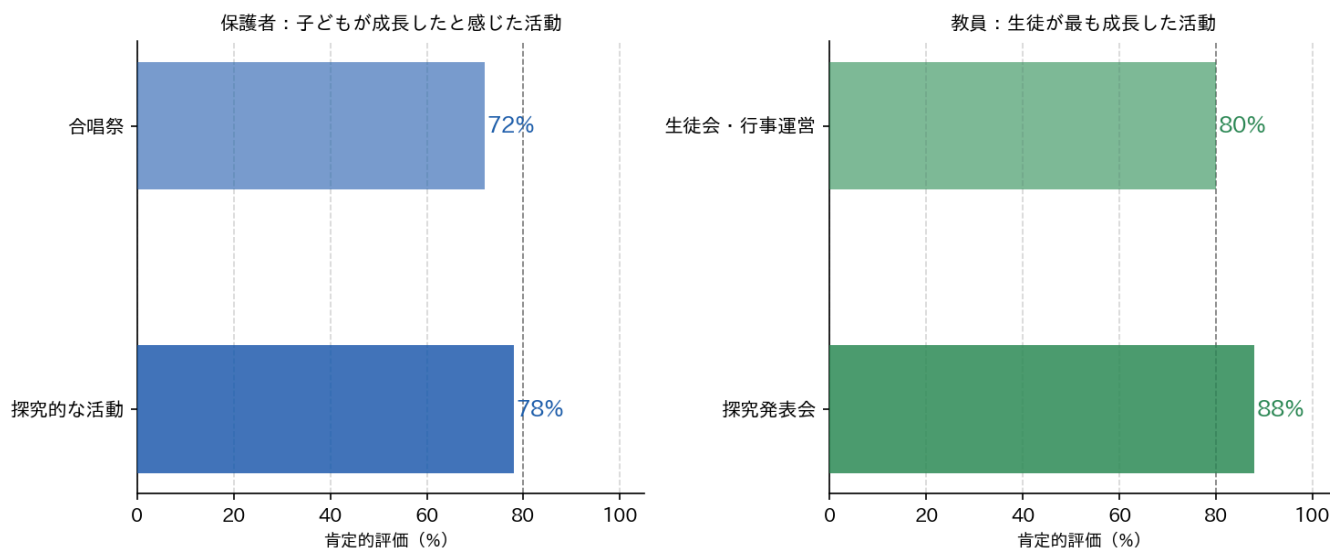
【保護者アンケート結果の分析】

保護者アンケートでは、「学校の教育活動は創立精神を大切にしている」(94%)、「1年間を通して子どもの人間的な成長を感じる」(94%)が特に高い評価となり、創立精神を基盤とした教育が保護者に広く支持されていることが確認された。教育方針別では【尊重】に関する項目の評価が高く、探究発表会についても「仲間を認め合う温かな雰囲気」として高く評価されている。一方、【自律】に関する「計画を立てて行動する姿勢」(83%)は他項目より低く、生徒が主体的に学習・生活をマネジメントする力の育成が課題として挙げられた。「いじめ防止や人間関係づくり」についても他項目より評価がやや低く、家庭との情報共有の強化と生活支援体制の充実が求められる。また、学習進捗状況の共有、単元テストと部活の日程調整、チーム担任制における相談窓口の明確化についての要望も複数寄せられた。探究的な活動(78%)、合唱祭(72%)が「子どもが成長したと感じた活動」の上位に挙げられ、行事・探究活動を通じた人間的成長が保護者にも実感されている(図2・左)。

【教員アンケート結果の分析】

教員アンケートでは、探究発表会(88%)、生徒会・行事運営(80%)が「生徒が最も成長した活動」として挙げられ、行事や探究を通じた教育の成果に手応えが感じられている。ビブリオバトルの取り組みや各教科の探究的学習など、個々の授業実践が生徒の成長につながっている事例も報告された。一方で、業務量の偏りや人員配置の課題、チーム担任制の運営における負担感も複数の教員から指摘されており、働き方改革の推進と業務の適正配分が喫緊の課題として浮かび上がった。また、「自律」や「尊重」の項目では、昨年度より改善が見られる一方、まだ課題が残っているとの評価もあり、組織的な協力体制の一層の強化が必要である。ICT活用や読書教育の両輪での推進、探究指導の負担軽減についても来年度の具体的な改善事項として検討を進める必要がある(図2・右)。

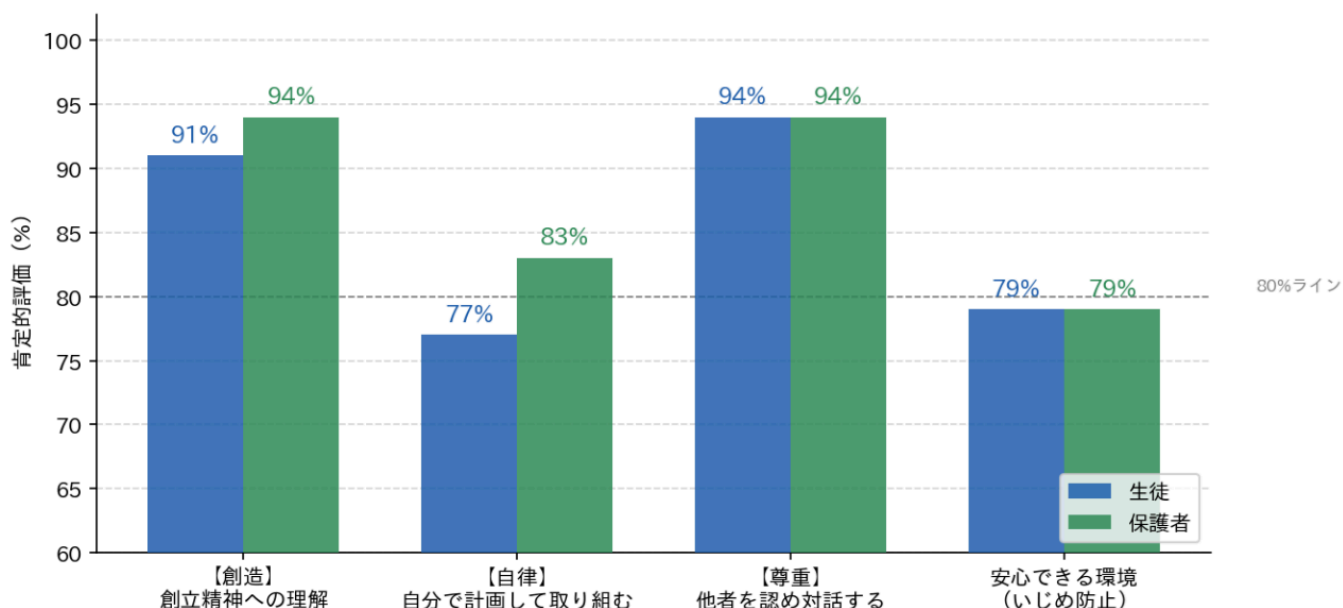
図2 成長を感じた活動（保護者・教員）



【総合的な総括】

本年度のアンケート結果から、本校の最大の強みは【尊重】を基盤とした対話的な学びの定着であることが三者(生徒・保護者・教員)共通して確認された。探究発表会・合唱祭・各種行事を通じた生徒の主体的成長は三者から高く評価されており、特に「探究活動」が三者すべてにおいて「最も成長を感じた活動」の上位に挙げられたことは、本校教育の大きな成果といえる。一方、「自律(主体的に計画して学ぶ力)」はアンケート全体を通じて最も評価が低い水準にとどまり、2026年度の最重点課題として位置づける。「安心できる環境」についても生徒・保護者双方から79%という結果であり、真摯に受け止め、安心の土台を日頃から築く取り組みを全教職員で共有していく。教職員の働く環境整備も生徒への教育の質と直結しており、業務改善・人員配置の適正化についても継続して取り組む(図3)。

図3 教育三方針・安心環境に関するアンケート結果（生徒・保護者）



【学校関係者評価委員会からの意見】

(実施日:2026年3月17日(火) 場所:本校理事室)

【よかった点】

- クエストエデュケーション(企業プレゼン)にて全国グランプリを受賞するなど、探究活動の成果が対外的にも高く評価されている。
- 非認知能力測定ツール「未来パスジュニア」において、3年生の「計画実行力」が劇的に伸びていると評価された。
- 英語力(英検IBA)の結果、2年生の91%が4級レベル、約4分の1が準2級レベル以上に到達するなど、英語教育の成果が数値で確認されている。
- 防災宿泊研修の企画(3年の生徒主体)、探究発表会、グローリーフェスタなど、生徒主体の活動が定着・充実している。
- 小中高の連携が進み、学校間の接続がより円滑になってきている。
- 教員が生徒に対してこまめに声かけをするなど、生徒一人ひとりへの丁寧な関わりが継続されている。
- チーム担任制により、多くの教員と関われる環境が整い生徒への多角的なサポートが可能になっている。
- 様々な教育的試みを積極的に行う姿勢と、授業・行事を通じた生徒の成長が認められている。

【改善してほしい点】

- 英語の授業における発信力(スピーキング)の向上が求められている。生徒・保護者双方から「もっと話す機会を増やしてほしい」という声がある。
- 家庭でのICT活用(chromebook等)と学習の線引きが不明確で、保護者が使い方に不安を感じている。
- 単元テスト形式への移行後、定期試験がなくなったことで高校進学後の試験対応についての保護者の不安がある。
- チーム担任制における「誰に相談すればよいかわかりにくい」という保護者・生徒の声が引き続き寄せられている。
- 月間予定の早期配信など、学校から家庭への情報発信の改善が求められている。
- 一部の生徒の通学マナー(車内での行動等)について、外部からの指摘が散見される。
- 班活動・探究活動など、負担が一部の生徒や教員に偏りやすい課題が残っている。

【今後への提案】

- 英語の授業において、スピーキングやコミュニケーションの機会をさらに増やす取り組みを充実させる。
- 家庭でのICT活用について、ルールの明確化と保護者への丁寧な説明を行う。
- 高校の試験形式についての情報提供や、中学での学び方がどのように高校に接続されるかを丁寧に説明する機会を設ける。
- チーム担任制について、教員一人ひとりの人となりを生徒だけでなく保護者の方にも伝える機会を増やし、相談しやすい環境を整備する。
- 月間予定をより早く、詳細に配信するなど、家庭との情報共有を強化する。
- 通学マナーについて、生徒の自主的な取り組みを促進し、意識の内面化を図る継続的な指導を行う。
- 探究活動・班活動における負担の偏りを軽減するための指導の工夫と、業務の適正配分を進める。
- 保護者が学校に来る機会を増やし、教育活動への理解と信頼を深める。
- 創立者の精神を、生徒が自ら考え、感じ、行動に移せるような日常的な教育活動を継続する。

【本年度の取り組みについて計画・実践・評価指標・自己評価】

〔Ⅰ〕教育理念に基づく「人間教育」の推進

今年度の重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 価値創造の育成			
創立者の哲学を学び、実践を通して創立精神を学ぶ	三人行事を中心に、研修行事や道德、HRで創立精神を学ぶ	年間を通じて創価道德プログラムが確立できたか	創価道德プログラムの体系化は昨年度に続き進展した。しかし、創立精神の意味を理解している生徒(91%)と、日常的に意識して行動している生徒(80%)の間に11ポイントの差があり、知識を行動に転化させる継続的な働きかけが引き続き重要な課題である。
講演会や懇談会を通して社会性を学び、世界市民の資質を育てる	文化講演会、グローバルセミナー、キャリアガイダンス、卒業生や創価大学生との懇談会の実施	グローバルセミナー、卒業生との懇談会が計画的に実施できたか	文化講演会・グローバルセミナー・卒業生懇談会を実施し世界市民の資質育成に取り組んだ。外部講師招へいや異文化交流も好評。クエストエデュケーション全国グランプリ受賞など探究活動の成果も確認された。より体系的なプログラムの構築が今後の課題である。
(2) 自律・主体性の育成			
自ら学び、互いに学び合う学習習慣を身につける	eラーニングの活用、英語のセルフペースラーニング導入、自主的なクラブ活動の運営を促進する	eラーニング活用、セルフペースラーニング、クラブ活動の自主的活動が推進できたか	2年生より英語のセルフペースラーニングを導入し、主体的な学習習慣の定着を促進した。「自分で計画を立てて取り組む」は生徒アンケートで77%と全設間中最低水準であり、環境整備と習慣化の橋渡しが2026年度の最重点課題として浮かび上がった。
探究プログラムを通して多角的視点を養い、課題解決の力をつける	探究推進委員による年間を通した主体的・対話的な探究学習、フィールドワークの実施	年間を通して計画的に行われ、生徒の課題解決の力がついていたか	探究推進委員主導で年間を通した探究学習とフィールドワークを実施。未来バジュニアにおいて3年生の「計画実行力」が劇的に伸びたと評価され、クエストエデュケーション全国グランプリも受賞。班活動の負担の偏りや進度の差については今後も工夫・改善が必要である。
進路関連行事を通して、自らの将来を見据えたキャリア形成を実現していく	職場体験、創価大学研修等の実施	進路関連行事が計画通り実施できたか	職場体験・創価大学研修を計画通り実施し、生徒が自らのキャリアを見据える機会を提供した。保護者・生徒双方から行事を通じた成長が報告されており、今後はキャリア教育をより体系的に位置づけていくことが課題である。
(3) 合意形成力の育成			
「話す力、聞く力、他者とつながる力」を育む	主体的・対話的な授業の推進。三人行事、対話会、ビブリオバトルの実施	探究発表会での生徒の表現力・コミュニケーション力を評価	ビブリオバトルへの取り組みは生徒の読書への興味・関心向上に貢献し、教員からも高評価を得た。探究発表会では多くの生徒が成長を示した。「自分と違う考えも受け入れて対話しようとしている」は生徒90%と高い評価であり、本校の強みとして定着している。
(4) ユネスコスクールの活動推進			
ユネスコの掲げる学びの4本柱「知ることを学ぶ」「為すことを学ぶ」「人間として生きることを学ぶ」「共に生きることを学ぶ」に基づいた取り組みを推進する	ユネスコの理念を学び実践する学校を目指す	ユネスコの理念を学び実践が行われているか	ユネスコの4本柱に基づく学びを推進し、知識習得と実践的スキル、人間性と共生の価値観を育成。保護者からの評価も高い。理念と日常の学校生活の一体化をさらに深めすべての教科・行事に浸透させることが今後の課題である。

〔Ⅱ〕教育力向上への挑戦

今年度の重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 授業力向上の取り組み			
「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を行う	学び合い授業の推進、公開授業・研究授業の実施、教員間の相互授業参観	教員・生徒アンケートによる評価。創造・自律・尊重の各方針での改善	主体的・対話的で深い学びを目指し、公開・研究授業および相互授業参観を実施。創造・自律・尊重の3方針すべてで1学期から2学期への向上が数値に表れ、教育目標に基づく指導の成果が確認された。学習スタイルへの適応に個人差があり、さらなる授業の工夫と個別対応が求められる。
計画的な教員研修を通して、教育スキルを磨く	月例研修・研究授業の実施、Web研修・外部研修への参加推進	月例研修・研究授業の実施。研修参加数増加がみられたか	月例研修や研究授業を計画的に実施し、外部研修参加も促進した。教員間の協力体制が強化されつつある一方、教員アンケートでは業務量の偏りや人員配置の課題も指摘されており、働き方改革と業務標準化の推進が喫緊の課題である。
(2) 生徒理解の取り組み			
生徒一人ひとりの状況を多角的に把握する	生徒個人面談、アンケート調査、カンファレンスの実施	担任は1学期に必ず生徒面談を実施。実施率100%を達成できたか	チーム担任制のもと個人面談を実施し、アンケートやカンファレンスで生徒情報を共有。面談実施率は高かった。「誰に相談すればよいかかわりにくい」との声が引き続き寄せられており、相談窓口の明確化と教員の人となり伝える機会の充実が必要である。
保護者との連携を深める	家庭訪問、保護者面談、保護者会、ガイダンス、教育セミナーの実施	全員実施（オンライン実施含む）できたか	保護者面談・保護者会・ガイダンスをオンラインも活用して全員実施した。月間予定の早期・詳細配信と相談窓口の明確化については引き続き改善を要するとの声がある。家庭と学校が連携してリズムをつかめるような情報発信の工夫を来年度も継続する。
(3) 支援教育の取り組み			
ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境を整備する	ユニバーサルデザインの視点による教室環境・授業改善	UD化の取り組みが生徒の学びを促進したか	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備を推進した。多様な学びの形態への対応は進んでいるが、全教科・全クラスへの浸透には引き続き取り組みが必要である。
生徒一人ひとりのニーズに合わせ個別最適化を推進する	サポート部の活動充実（支援会議・教員研修）、個別支援計画の作成。英語・数学での学年展開授業の継続	毎週の支援会議実施、SC（スクールカウンセラー）・SSW（スクールソーシャルワーカー）との連携充実	定期的な支援会議を開催しSC・SSWとの連携を強化した。英語・数学の学年展開授業を継続し、生徒が自身の理解度・学習ペースに合わせて学べる環境を整えた。一部の学習層にはマッチしにくいケースもあり、さらなる工夫と保護者への丁寧な説明が必要である。

〔Ⅲ〕「安心・安全」の学園生活への実践

今年度の重点目標	取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 心理的安全性の構築			
「子どもの権利条約」をふまえ、自分の意見や気持ちを安心して表現できる環境を保障する	道徳教育・人権教育の充実、SCとの日常的連携、生徒の小さなサインを見逃さない情報共有体制の構築	生徒・保護者アンケートの「安心できる環境」項目	道徳・人権教育を継続し、SCとの連携強化に努めた。しかし、生徒・保護者双方で「いじめのない安心できる環境」への評価が79%と他項目より低く、問題が起きてから動くのではなく、日頃から安心の土台を築く姿勢を全教職員で共有していく必要がある。
(2) 生徒の主体的活動の支援 生徒の主体的活動を支援し、生徒による学校づくりを推進する			
通学マナーの改善を図る	通学路・電車内のマナー向上のための取り組み、安全セミナーの実施	無事故を達成できたか、安全セミナーが開催されたか、生徒のマナー意識が高まったか	安全セミナーを実施し日常的な指導も継続した。重大事故の発生はなかった。一部に外部からのマナー指摘もあり、生徒の自主的な取り組みの促進と意識の内面化が引き続きの課題である。
生徒会活動の活	生徒会執行部を中心	生徒中心の自主的	生徒会執行部を中心に委員会活動を活発化した。グロリー

発化を図る	とした中央会議の活性化推進、委員会活動の充実	な活動が機能したか	フェスタをはじめ生徒主体の活動が定着し、自治意識の高まりが見られる。教員の関与度合いについては引き続き試行錯誤が必要であり、生徒がより主体的に運営できる体制を整えていく。
(3) 各種セミナーを通して正しい知識を身につけ、問題解決力の向上を図れるよう支援する			
食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止等のセミナーを開催する	食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止などの各種セミナーの実施	各種セミナーの100%実施ができたか	食育・ネット・防犯・防災・薬物乱用防止のセミナーを計画通りすべて実施。生徒の安全意識向上に貢献し保護者からも高評価を得た。知識習得にとどまらず、生徒が主体的に問題解決力を高める内容へと発展させることが来年度の課題である。

2025年度 学校評価総括【まとめと改善点】

1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の学校運営と教育活動の改善点を以下にまとめる。全体として、生徒主体の学びと行事・探究活動を通じた人間的成長に対する肯定的評価は高い水準であったが、さらなる改善のため以下の点に重点的に取り組む。

① 自律の芽を育てる

「自分で計画を立てて取り組む」は生徒アンケート77%・保護者83%と全方針中最低水準であり、2026年度の最重点課題として取り組む。各教科での「本日のめあて設定」や「授業後の振り返り」を日常に組み込み、小さな目標設定と自己評価の習慣化を図る。中1には入学直後から「自分で決めて動く経験」を積み重ねられるよう、学年団として丁寧に支援する。

② 安心できる場づくりをさらに丁寧に

生徒・保護者双方で「いじめのない安心できる環境」への評価が79%と他項目に比べて低く、生徒の自由記述にも切実な声が届いている。道徳・人権教育の充実を図るとともに、SCとの連携を日常的なものにし、教員が生徒の小さなサインを見逃さない情報共有体制を学年・全校で整備する。問題が起きてから動くのではなく、安心の土台を日頃から積み上げる姿勢を全教職員で共有する。

③ 探究学習の質向上と負担の適正化

探究発表会は三者から高く評価される本校の大切な柱である。来年度は「質を高めること」と「生徒・教員の負担を適切に保つこと」の両立を意識する。グループ間の取り組みの差を縮める指導の工夫や、発表力向上のための場づくりを進め、生徒が「やってよかった」と感じられる探究活動を推進する。

④ 保護者とつながる学校づくり

「誰に相談すればよいかわからない」「担任との距離が遠い」という声は引き続き寄せられた。チーム担任制の利点を生かしつつ、相談窓口の明確化と教員の人となり伝える機会を増やす。月間予定の早期配信など、家庭が学校生活のリズムを一緒につかめる情報発信を充実させる。

⑤ 英語コミュニケーション力の向上

英検IBA等の外部試験では着実な英語力向上が確認されている一方、生徒・保護者・評価委員からは「もっと話す機会を増やしてほしい」という声が共通して寄せられた。来年度は英会話・スピーキング活動の機会を授業内外でさらに拡充し、発信力の向上に注力する。

⑥ 教職員が働きやすい環境の整備

教員アンケートには業務量の偏り・人員配置への要望が複数あった。教育の質は教職員の働く環境と直結している。業務の見直し・標準化・適正配分を継続して進め、教職員一人ひとりがやりがいを持って働ける職場づくりに取り組む。

2. 今後の学校運営のあり方

変化の激しい時代において、本校の教育は世界的視野を持ち、歴史的変動の時代を切り拓く人材の育成を目指している。「最大の教育環境は教師自身である」という創価教育の精神に基づき、教員の資質向上に努める。

具体的には以下の3点を特に意識して取り組む。

- 保護者や学校関係者からの評価を謙虚に受け止め、常に改善に努める。
- 「育てたい学園生像」に即した教育内容の充実と学校運営の見直しを行う。
- 教員研修の充実と校内での学び合いを促進し、教育力の向上に努める。